

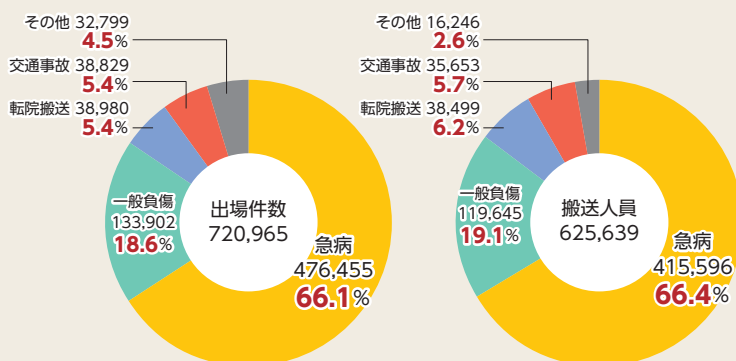
第3節 救急活動の現況

～救急出場の状況と「#7119」の有効活用～

● 事故種別救急活動状況

区分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
出場件数	720,965	38,829	3,209	2,933	7	730	4,535
搬送人員	625,639	35,653	616	2,917	7	363	4,450

● 救急出場件数の事故種別の内訳



● 隊別出場件数上位 10 隊【件】

救急隊名	件数	1日平均
大久保救急	3,650	10.0
八王子第1救急	3,599	9.8
大島救急	3,595	9.8
江戸川第1救急	3,496	9.6
八王子第2救急	3,423	9.4
江戸川第2救急	3,354	9.2
淵江救急	3,343	9.1
板橋救急	3,303	9.0
練馬救急	3,296	9.0
立花救急	3,270	8.9

● 救護人員【人】

区分	救護人員		
	総数	搬送	現場処置
令和2年	626,536	625,639	897
令和元年	732,842	731,900	942
増減数	▲106,306	▲106,261	▲45
増減率	▲14.5%	▲14.5%	▲4.8%

● 高齢者搬送人員【人】

	65歳以上計	65歳～74歳	75歳以上
令和2年	342,085	85,634	256,451
令和元年	383,856	97,795	286,061
増減数	▲41,771	▲12,161	▲29,610
増減率	▲10.9%	▲12.4%	▲10.4%

● 出場件数の前年比較【件】

区分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令和2年	720,965	38,829	3,209	2,933	7	730	4,535
令和元年	825,929	45,696	3,539	5,281	21	880	5,404
増減数	▲104,964	▲6,867	▲330	▲2,348	▲14	▲150	▲869
増減率	▲12.7%	▲15.0%	▲9.3%	▲44.5%	▲66.7%	▲17.0%	▲16.1%

● 搬送人員数の前年比較【人】

区分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令和2年	625,639	35,653	616	2,917	7	363	4,450
令和元年	731,900	42,844	606	5,256	14	455	5,314
増減数	▲106,261	▲7,191	10	▲2,339	▲7	▲92	▲864
増減率	▲14.5%	▲16.8%	1.7%	▲44.5%	▲50.0%	▲20.2%	▲16.3%

※割合、構成比(率)、増減率等の割合を示す数値及び指数を示す数値については、少数第2位又は3位を四捨五入しています。したがって、

1 救急出場の状況

(1) 救急活動総括表

■ 図表1-3-1 救急活動総括表

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
133,902	5,700	5,223	476,455	38,980	503	160	9,799
119,645	3,978	3,915	415,596	38,499	-	-	-

● 程度別搬送人員【人】

区分	搬送人員	重症以上	中等症	軽症
総数	625,639	50,463	245,439	329,737
	100.0%	8.1%	39.2%	52.7%
急病	415,596	35,960	171,026	208,610
	100.0%	8.7%	41.2%	50.2%
交通	35,653	973	5,991	28,689
	100.0%	2.7%	16.8%	80.5%
転院搬送	38,499	8,632	26,419	3,448
	100.0%	22.4%	68.6%	9.0%
一般負傷	119,645	2,910	37,823	78,912
	100.0%	2.4%	31.6%	66.0%
その他	16,246	1,988	4,180	10,078
	100.0%	12.2%	25.7%	62.0%

● 回転翼航空機による救急活動状況【件】

区分	隊数
令和2年	367
令和元年	418
増減数	▲51

● 救急出場件数が3,500件以上の救急隊【隊】

区分	隊数
令和2年	3
令和元年	59
増減数	▲56

● 救急活動状況

区分	救急隊数	1日平均	1隊平均*	1隊1日平均*	出場頻度
令和2年	270隊	1,970件	2,670件	7.3件	44秒に1回
令和元年	267隊	2,263件	3,093件	8.5件	38秒に1回

※令和2年は浜町・城東第2・調布第2を含む270隊で算出

※令和元年は碑文谷・西が丘・高島平第2・竹丘・保谷・多摩センター第2(R1.10.9)、本部機動第3・第4(R1.10.16)を含む267隊で算出(池袋デイトム(R1.5.17)を含まない)

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
133,902	5,700	5,223	476,455	38,980	503	160	9,799
147,601	5,317	6,112	550,306	45,179	556	211	9,826
▲13,699	383	▲889	▲73,851	▲6,199	▲53	▲51	▲27
▲9.3%	7.2%	▲14.5%	▲13.4%	▲13.7%	▲9.5%	▲24.2%	▲0.3%

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送
119,645	3,978	3,915	415,596	38,499
133,728	3,833	4,813	490,379	44,658
▲14,083	145	▲898	▲74,783	▲6,159
▲10.5%	3.8%	▲18.7%	▲15.3%	▲13.8%

- ・死亡 …… 初診時死亡が確認されたもの
- ・重篤 …… 生命の危険が切迫しているもの
- ・重症 …… 生命の危険が強いと認められたもの
- ・中等症 …… 生命の危険はないが入院を要するもの
- ・軽症 …… 軽易で入院を要しないもの

内訳の合計は必ずしも総数に一致しません。

(2) 過去5年間の推移

平成28年から令和2年まで過去5年間の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和元年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和2年4月1日現在、全国救急隊数5,270隊、救急車台数（非常用含む）6,443台）。

■ 図表1-3-2 過去5年間の出場件数等の推移

区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	全国（R1）
出場件数（件）	777,382	785,184	818,062	825,929	720,965	6,639,767
1日平均件数（件）	2,124	2,151	2,241	2,263	1,970	18,191
出場頻度（秒）	41	40	39	38	44	4.7

(3) 日別最多出場件数

昭和35年以降の日別出場件数の上位5位は、平成30年の酷暑により過去の記録が全て更新されました。それ以外では積雪による転倒受傷やインフルエンザ流行の影響により、冬期に出場件数が増加する傾向にあります。（図表1-3-3、4）

■ 図表1-3-3 日別上位出場件数（夏季5位、夏季以外5位）

順位	年月日	出場件数	熱中症疑い	最高気温
1	平成30年7月23日（月）	3,382	熱中症疑い（411人）	39.0℃
2	平成30年7月22日（日）	3,124	熱中症疑い（365人）	35.6℃
3	平成30年7月21日（土）	3,092	熱中症疑い（339人）	34.9℃
4	令和元年8月3日（土）	3,058	熱中症疑い（322人）	33.7℃
5	平成30年8月3日（金）	3,048	熱中症疑い（248人）	35.4℃

順位	年月日	出場件数	気候の特徴
1	平成31年1月15日（火）	2,906	最低気温0.4℃
2	令和元年12月27日（金）	2,894	最低気温4.5℃
3	平成30年1月24日（水）	2,826	最低気温-1.8℃（積雪9cm）
4	平成26年12月30日（火）	2,806	最低気温1.8℃
5	平成28年12月17日（土）	2,801	最低気温0℃



熱中症の予防対策を！

高温・多湿・直射日光を避ける！

エアコン等を利用して、室内の温度を調整しましょう。また、服装を工夫して通気を良くしたり帽子や日傘を使用しましょう。

水分補給はこまめに計画的に！

のどが渇いてから水分補給をするのではなく、意識的に水分補給を心がけましょう。

暑さに身体を慣らしていく！

ウォーキングなど運動をすることで汗をかく習慣を身に付けるなど、暑さに強い体をつくりましょう。

■ 図表1-3-4 過去5年間の熱中症救急搬送人員数

年	搬送人員
平成28年	3,024
平成29年	3,454
平成30年	8,295
令和元年	6,094
令和2年	5,955

(4) 地域別救急出場件数

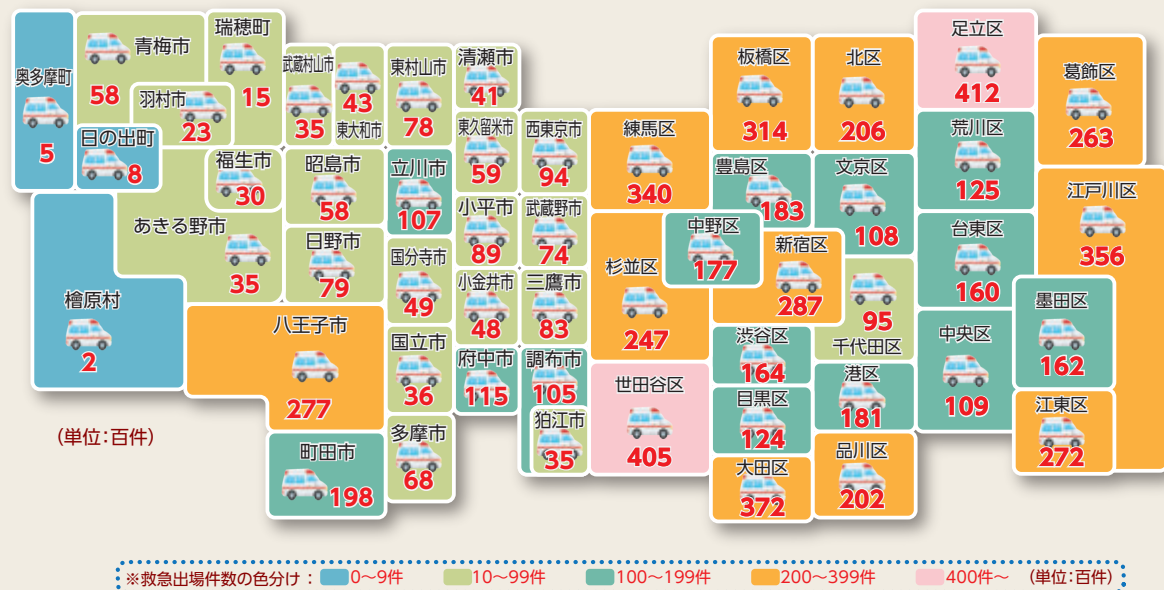
23区で救急出場件数が多いのは足立区、多摩地区で救急出場件数が多いのは八王子市となっています。各区市町村別の救急出場件数は、「附属資料4 統計表(306ページ)」をご覧ください。

■ 図表1-3-5 地域別出場件数上位5位

23区	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数
1	足立区	42,767	足立区	42,956	足立区	44,638	世田谷区	45,424	足立区	41,227
2	世田谷区	41,999	世田谷区	42,849	世田谷区	44,333	足立区	45,334	世田谷区	40,501
3	大田区	39,981	大田区	39,787	大田区	42,117	大田区	41,758	大田区	37,167
4	江戸川区	36,530	江戸川区	36,929	江戸川区	38,264	江戸川区	38,391	江戸川区	35,550
5	練馬区	35,043	練馬区	35,639	練馬区	37,147	練馬区	37,413	練馬区	34,035

多摩地区	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数	市町村	件数
1	八王子市	29,389	八王子市	29,751	八王子市	30,726	八王子市	30,643	八王子市	27,735
2	町田市	20,711	町田市	21,074	町田市	21,670	町田市	21,975	町田市	19,763
3	府中市	13,142	府中市	12,550	府中市	12,828	府中市	13,039	府中市	11,451
4	立川市	11,251	立川市	11,831	立川市	12,110	立川市	11,963	立川市	10,717
5	調布市	10,976	調布市	11,100	調布市	11,944	調布市	11,725	調布市	10,468

■ 図表1-3-6 区市町村別救急出場件数(概数)の状況(令和2年中)



(5) 駅舎別救急出場件数

23区で駅舎別救急出場件数が多いのは新宿駅、池袋駅、東京駅の順で、多摩地区では立川駅、町田駅、八王子駅の順となっています。(図表1-3-7)



■ 図表1-3-7 駅舎別救急出場件数上位

23区	駅名	年間件数
1	新宿駅	1,271
2	池袋駅	865
3	東京駅	786
4	渋谷駅	783
5	上野駅	527

多摩地区	駅名	年間件数
1	立川駅	333
2	町田駅	311
3	八王子駅	235
4	吉祥寺駅	177
5	三鷹駅	165

※上記の数値は令和2年中に駅の住所に指令をかけた救急出場件数であり、駅構内で起きた救急出場件数とは異なります。また、複数路線ある駅は統合した数字になります。



救急機動部隊

救急需要に合わせ、 待機場所を変更する救急隊

消防署に待機している通常の救急隊と違って、時間帯等によって変化する救急需要に合わせて、待機場所を変更する救急隊です。救急需要の高い場所付近に待機することで、早く現場に駆けつけることができるとともに、感染症、NBC災害、多数傷病者、多言語対応等、様々な救急事案に対応します。

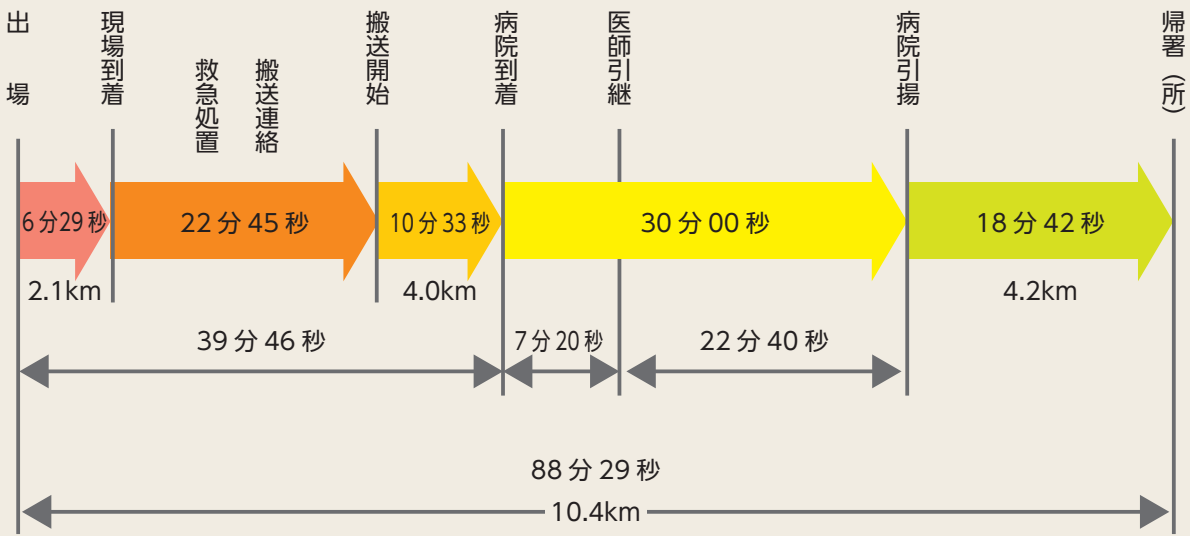
令和元年10月に部隊を拡充し、日中は東京駅周辺及び世田谷の各エリアに、夜間は新宿駅周辺及び六本木の各エリアにそれぞれ2隊の救急隊が待機しています。



(6) 活動時間・距離

令和2年中の救急隊が出場してから帰署(所) するまでの救急活動平均所要時間は88分29秒で、平均走行距離は10.4kmです。昨年と比較すると救急活動平均所要時間は、2分50秒長くなり、平均走行距離は0.1km長くなっています。(図表1-3-8)

■ 図表1-3-8 救急活動時間と走行距離



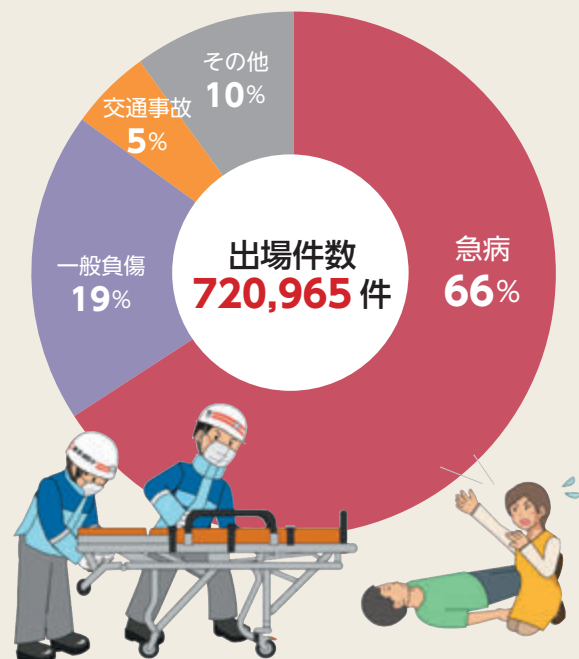
(7) 事故種別ごとの出場件数

急病、一般負傷、交通事故で全救急出場件数の約9割を占めています。(図表1-3-9)

■ 図表1-3-9 事故種別出場件数

事故種別	件数	割合
急病	476,455	66%
一般負傷	133,902	19%
交通事故	38,829	5%
その他	71,779	10%
合計	720,965	100.0%

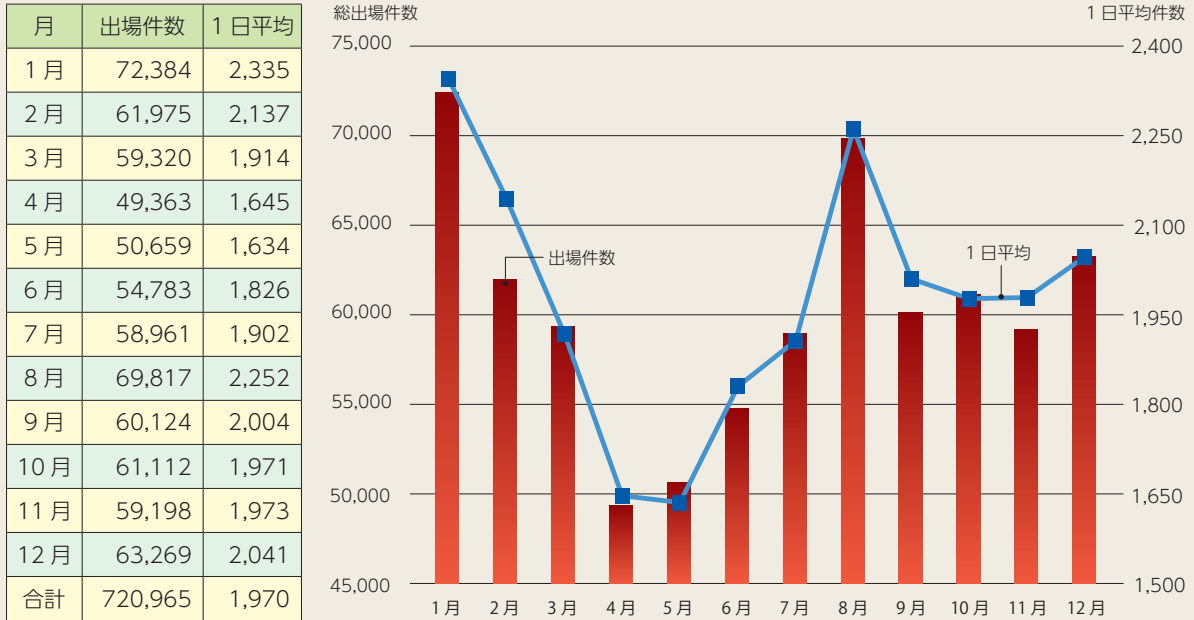
その他内訳	件数	割合
転院搬送	38,980	5.4%
加害	5,223	0.7%
運動競技事故	2,933	0.4%
労働災害事故	4,535	0.6%
自損行為	5,700	0.8%
火災事故	3,209	0.4%
水難事故	730	0.1%
資器材等輸送	503	0.1%
医師搬送	160	0%
自然災害事故	7	0%
その他(上記以外)	9,799	1.4%



(8) 月別・時間帯別出場件数

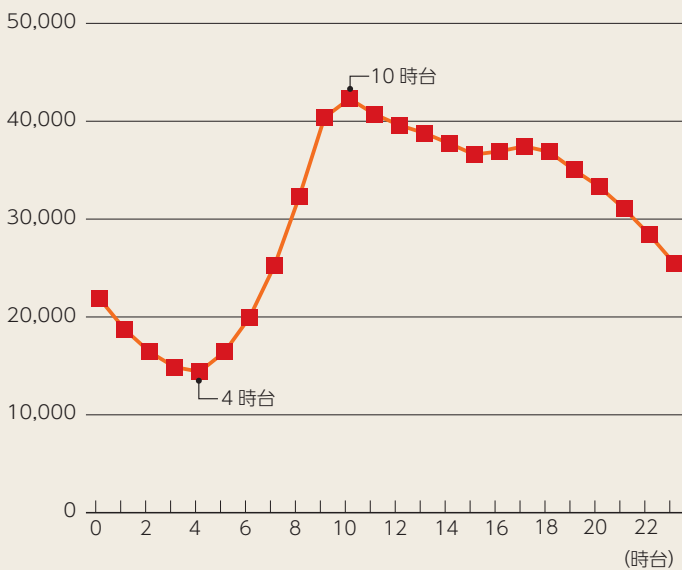
ア 月別

■ 図表1-3-10 月別出場件数



イ 時間帯別

■ 図表1-3-11 時間帯別出場件数



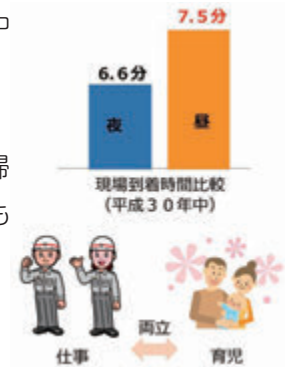
時間帯	出場件数	構成比(%)
0時台	21,790	3.0
1時台	18,646	2.6
2時台	16,330	2.3
3時台	14,788	2.1
4時台	14,299	2.0
5時台	16,331	2.3
6時台	19,864	2.8
7時台	25,237	3.5
8時台	32,357	4.5
9時台	40,411	5.6
10時台	42,392	5.9
11時台	40,792	5.7
12時台	39,676	5.5
13時台	38,842	5.4
14時台	37,773	5.2
15時台	36,664	5.1
16時台	36,961	5.1
17時台	37,470	5.2
18時台	36,942	5.1
19時台	35,054	4.9
20時台	33,347	4.6
21時台	31,076	4.3
22時台	28,447	3.9
23時台	25,476	3.5
合計	720,965	100

コラム

デイトタイム救急隊

デイトタイム救急隊の概要

- 平成30年中の現場到着時間を分析すると、夜間と比較し、日中は長くなる傾向にあります。
⇒日中の救急需要が多い地域で現場到着時間を短縮
- 育児休業期間終了後等の救急資格を保有する職員が、職場復帰後、すぐに交替制（24時間）の救急隊へ勤務することは必ずしも容易ではありません。
⇒交替制勤務が困難な救急資格を有する職員の活躍
- 電気救急車（EV）を使用
車両には、電動ストレッチャー等も備え、体格の大きな外国人や重体重の傷病者への対応力を強化しています。



▲ 車両

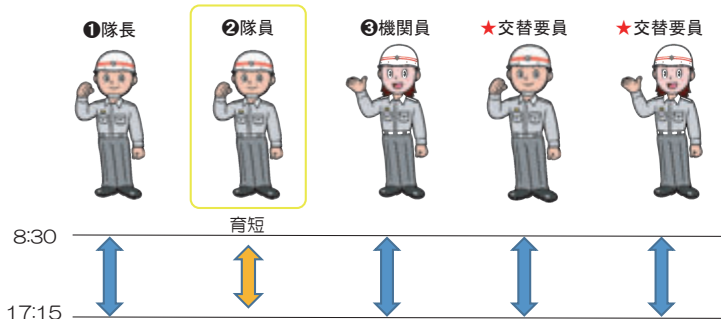


▲ 電動ストレッチャー

運用イメージ (1隊5名配置の一例)

○運用時間
平日の8時30分から17時15分までの間

5名配置構成例



隊長を女性職員、隊員、機関員を男性職員とするような他の編成パターンも可能

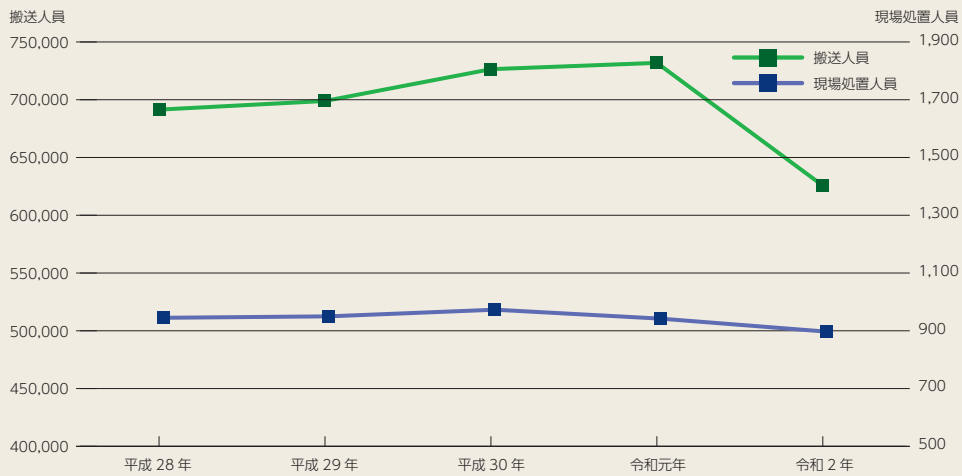
〈凡例〉育短…育児短時間勤務等の取得者

2 救護・搬送人員の状況

(1) 救護・搬送人員過去5年間の推移

令和2年中の搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は625,639人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は897人となり、合わせた救護人員は626,536人となっています。（図表1-3-12）

■ 図表1-3-12 救護・搬送人員の推移



	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
搬送人員	691,423	698,928	726,428	731,900	625,639
現場処置人員	945	950	973	942	897
救護人員計	692,368	699,878	727,401	732,842	626,536

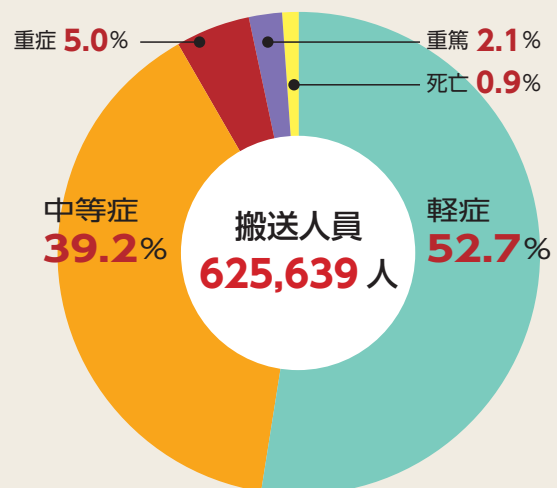
(2) 搬送人員

ア 初診時程度

搬送人員のうち半数以上が軽症で、中等症と軽症を合わせると9割を超えています。（図表1-3-13）

■ 図表1-3-13 初診時程度別搬送人員

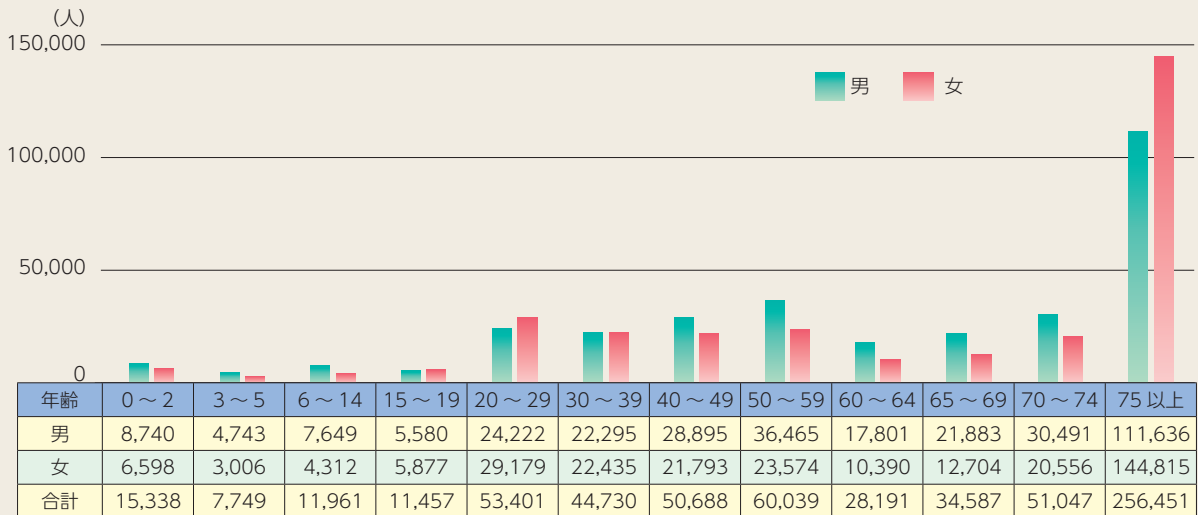
初診時程度	搬送人員	割合
軽症	329,737	52.7%
中等症	245,439	39.2%
重症	31,345	5.0%
重篤	13,248	2.1%
死亡	5,870	0.9%
合計	625,639	100.0%



イ 年齢層

令和2年の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上の割合が最多となっています。
(図表1-3-14)

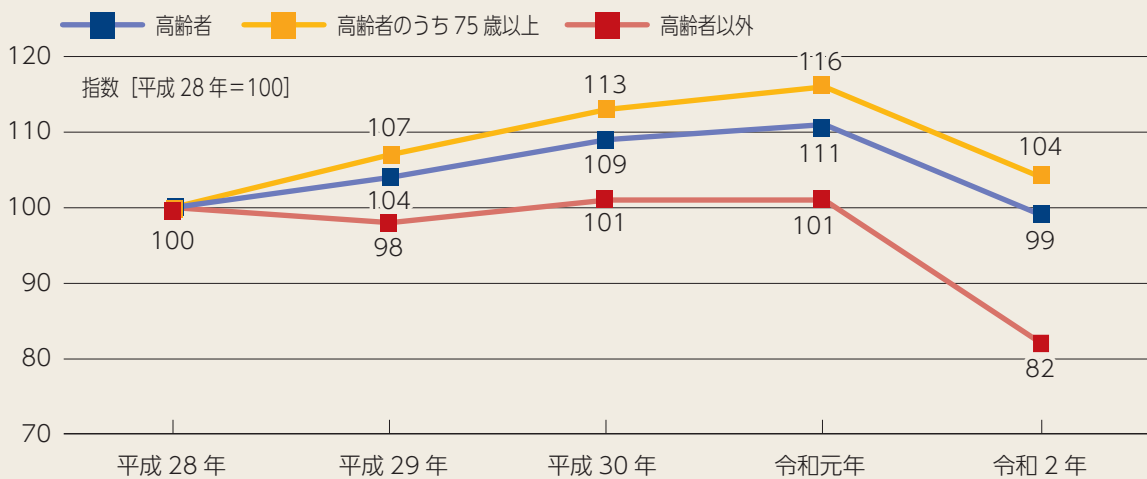
■ 図表1-3-14 年齢層別・性別搬送人員



ウ 高齢者搬送人員過去5年間の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は、342,085人で、全搬送人員の54.7%を占めています。(図表1-3-15)

■ 図表1-3-15 高齢者搬送人員の推移



	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全搬送人員	691,423	698,928	726,428	731,900	625,639
高齢者	346,703	361,734	378,314	383,856	342,085
高齢者のうち75歳以上	246,301	262,828	278,019	286,061	256,451
高齢者以外	344,720	337,194	348,114	348,044	283,554
高齢者の割合	50.1%	51.8%	52.1%	52.4%	54.7%

3 都民等による応急手当の実施状況

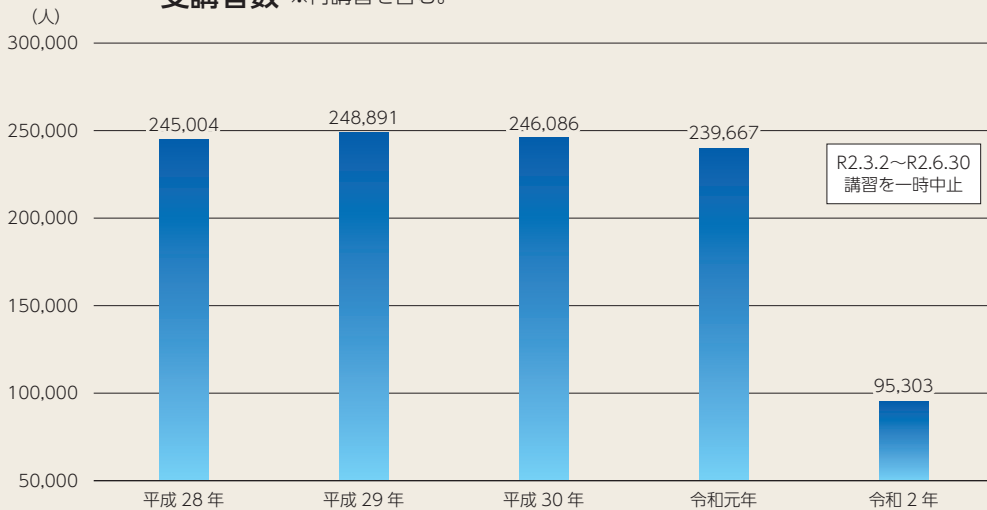
(1) 救命講習受講者の推移

令和2年中は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で各種救命講習等を一時中止しており、救命講習（普通救命講習*・上級救命講習*・応急手当普及員講習*）の受講者数は95,303人となりました。また、応急救護講習等を含めると151,660人となりました。（図表1-3-16、17）

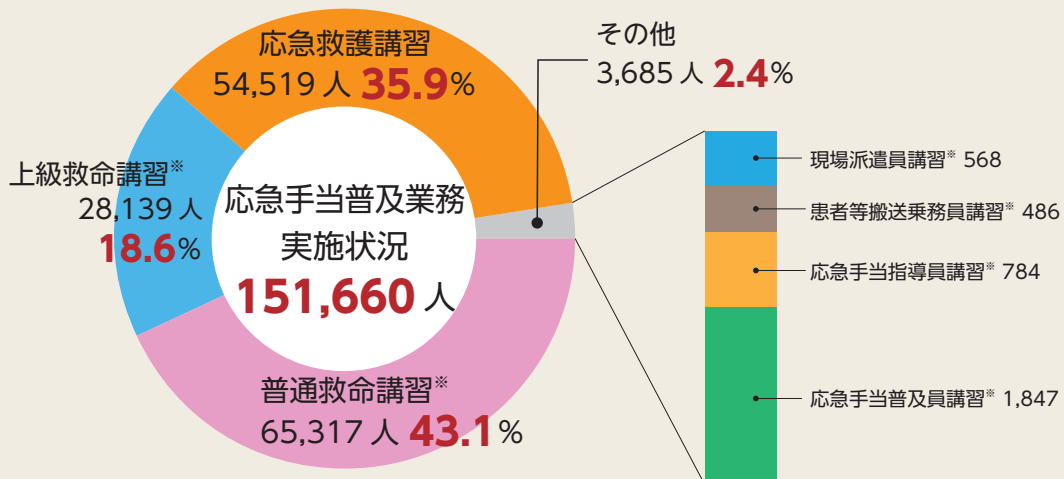
救急現場に居合わせた人（バイスタン

ダー）の目撃がある心臓機能が停止した傷病者に対しバイスタンダーが胸骨圧迫やAED等による応急手当を実施した場合（13.0%）と実施しなかった場合（3.5%）では、傷病者の1ヶ月後の生存率は約3倍以上の差が生じています（令和2年中）。救命講習を実施し、応急手当の知識を身につけましょう。

■ 図表1-3-16 救命講習（普通救命講習*・上級救命講習*・応急手当普及員講習*）受講者数 ※再講習を含む。



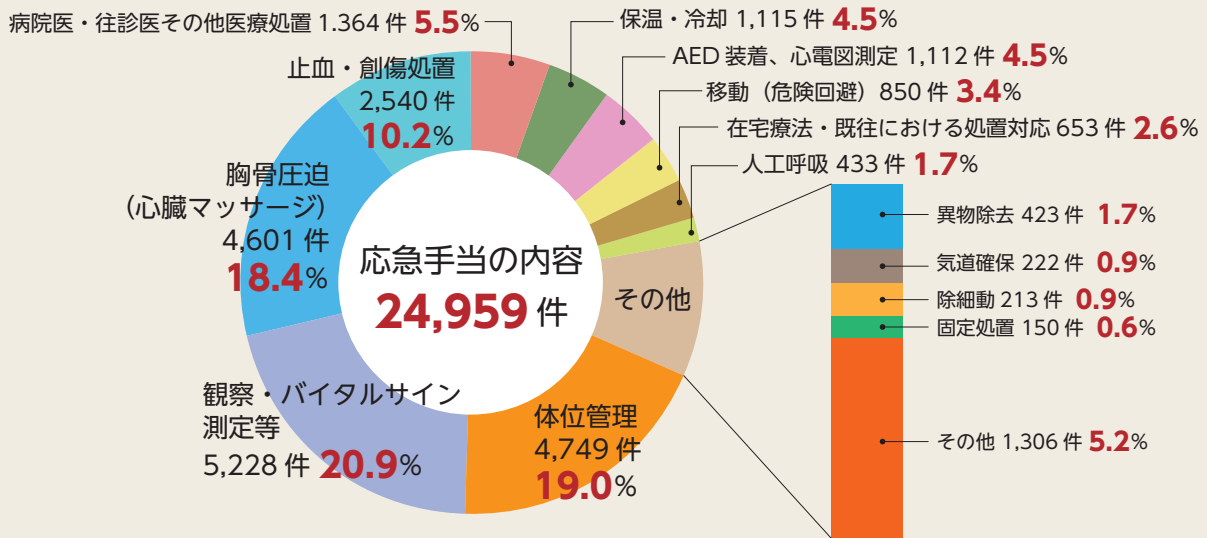
■ 図表1-3-17 応急手当普及業務実施状況



(2) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、24,959件の応急手当が実施されています。(図表1-3-18)

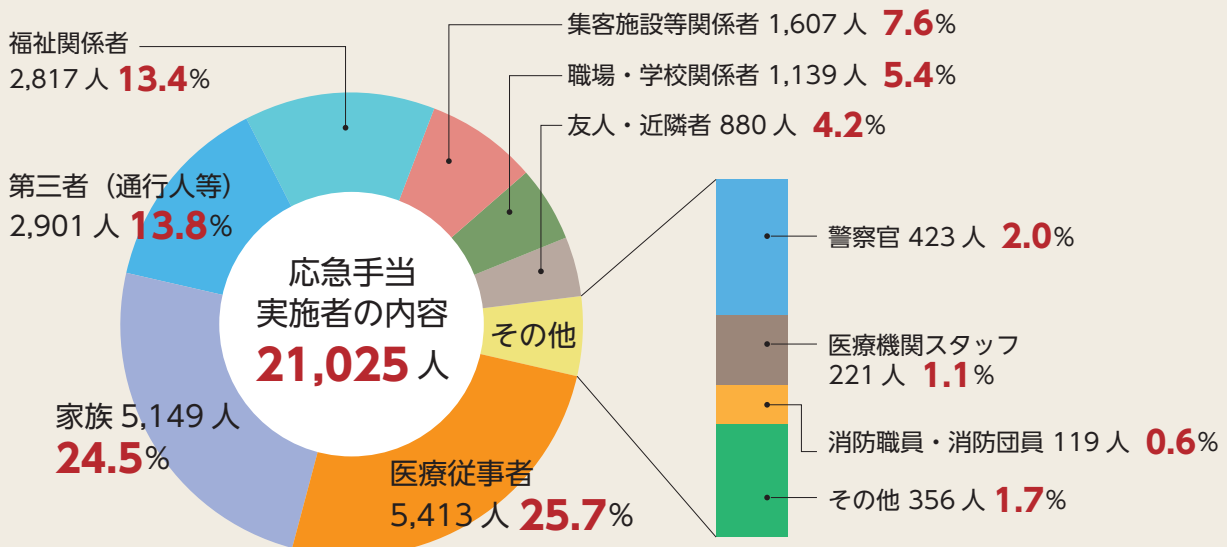
■ 図表1-3-18 都民等による応急手当の内容



(3) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者に次いで家族が2番目に多くなっています。大切な人の命を救うために救命講習を受講しましょう。(図表1-3-19)

■ 図表1-3-19 応急手当実施者



第1章・数字で見る令和2年中の東京消防庁管内の災害動向等

4 「# 7119」 東京消防庁救急相談センターの現況



急な病気やけがをした際に「救急車を呼ぶべきか」、「今すぐ病院で受診すべきか」迷った時や、どこの病院に行ったらよいか分からない時などに電話で相談を受け、緊急受診の要否や適応する診療科目、診察可能な医療機関等について相談者にアドバイスを行います。

(1) 対応内容別受付状況

過去2年間の救急相談センター対応内容別受付状況は次のとおりです。

■ 図表1-3-20 対応内容別受付状況

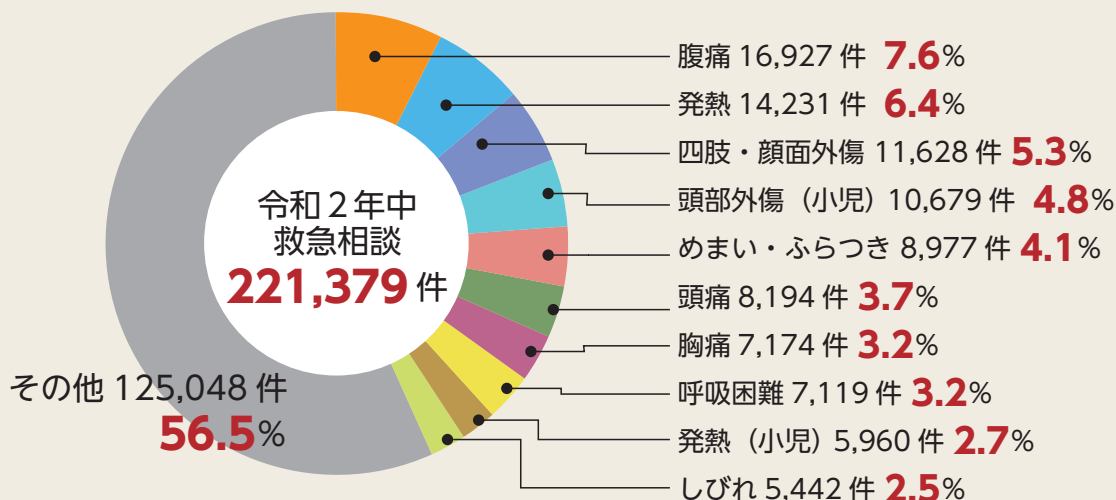
年次	計	医療機関案内	救急相談		相談前 救急要請*	その他
				うち相談後救急要請		
令和2年	362,454件	140,261件	221,379件	34,392件	664件	150件
令和元年	417,013件	184,425件	231,686件	31,412件	717件	185件

※利用者の要請や聴取内容に応じて、救急相談看護師に電話を接続する前に救急要請に至った件数

(2) 救急相談の内訳

令和2年中の救急相談センター受付件数中、救急相談の内訳は次のとおりです。腹痛、発熱に関する相談の割合が多くなっています。(図表1-3-21)

■ 図表1-3-21 救急相談の内訳比



(3) 相談対象者の年齢

令和2年中の相談対象者の年齢構成比は次のとおりです。0歳から14歳の相談対象者の割合が多くなっています。

75歳以上の相談対象者の年齢構成比は14.9%となっていますが、救急車で搬送し

た方の年齢構成比でいうと75歳以上の方が全体の41.0%を占めています。(77ページ参照)

救急車を呼ぶか迷ったときは「#7119」をご利用ください。(図表1-3-22)

■ 図表1-3-22 相談対象者の年齢構成比

